

令和6年度 前川光町長とふれあいミーティング 議事録

日時：令和6年5月1日（水）18:30～20:00

場所：オンライン開催

出席者：前川光町長、馬場教育長、武田総務部長、沖健康福祉部長、藤波環境事業部長、
浅田教育次長、事務局（坂口企画財政課長、廣山）

参加者数：22名

1. 長寿会について

（住民）

以前は15団体ぐらいの地区長寿会があったが、現在は3団体になり、長寿会連合会が解散状態である。長寿会は自主運営組織ではあるが、高齢化社会における行政の役割として、この状況をどのように考えているか。

また、地区長寿会に対する補助金の交付が、令和5年度から停止されている。補助金の交付は大山崎町長寿会連合会への加入が前提であるとのことだが、会員が減少する中で、長寿会を存続し、活動を継続しようとしている地区長寿会に対して、補助金交付の検討をお願いしたい。長寿会への交付が難しいのであれば、他のカテゴリーも含めて検討してほしい。

【町回答】

高齢者の人口が増加する中、長岡京市では長寿会への加入者も増加しているが、本町では減少している状態であり、長寿会連合会については、役員のなり手がいないことを理由に自主的に解散された経緯がある。

補助金の交付については、規則上、大山崎町長寿会連合会への加入を交付要件としているため、現状は交付していない状況である。

長寿会のような組織から高齢者のご意見をお聞きすることは、まちづくりには重要なことであるため、今後は新しい長寿会の形を検討していきたい。

（住民）

新しい長寿会の形について何か見通しがあるのか、その状況を聞きたい。

【町回答】

現在はまだ見通しはない。長寿会連合会が解散されたのは役員のなり手がいないということが原因なので、できたらもう1回、一から組織を作っていきたいと考えている。

まずはシルバー世代の方が集う事業を町の方で実施していきたい。そうした中で役員の担い手が登場することを期待して、まずはそうした形づくりをしていきたい。

2. 男女共同参画について

(住民)

令和 6 年度の男女共同参画推進事業に関わる予算が 1 万円であり、他の自治体と比べて、この数字はあまりにも小さすぎるのではないか。

以前の議会の予算委員会では、この 1 万円は研修会等を実施する際の講師への謝礼として執行しているが、必ずしも男女共同参画に直接的に関わる研修会等を実施しているものではないと職員が答弁されていた。

過去のこの予算の執行内容を調べると男女共同参画に直接的に関わらない人権の研修に予算が使われていることがあったが、そもそもルール上、問題はないか。

【町回答】

男女共同参画事業にかかる予算が非常に少ないということについてはそのとおりで、マンパワーの部分も含めて男女共同参画事業に対して、なかなか近隣市町ほど向き合っていないというのが実態である。

予算の執行状況については、基本的な人権の確立という部分も生涯学習課・教育委員会の使命となっているので、例えば人権の啓発事業の中でジェンダーについても講師の先生に触れていただく、あるいはジェンダー事業の講演の中で、基本的な人権についてできるだけ幅広く触れていただくというようなことで数少ない事業の機会をできるだけ多くの課題に、いわば振り分けられるというような取り組みにしているということが実態である。

(住民)

例えば、被差別部落の人権の研修にその 1 万円の予算が使われていた場合は、その研修の中で必ず男女共同参画に関わる話も含まれているという理解でよいか。

【町回答】

必ず触れているということは断言できない。大きな枠組みの中での人権の取り組みという位置付けで、運用しているということをご理解いただきたい。

(住民)

人権の予算は人権の予算として別であるわけで、男女共同参画は人権の問題の一部であるため、その予算を男女共同参画事業に使うことは問題ないが、男女共同参画の予算を他の人権課題に使うのは、不適切な使い方ではないかと思う。これまでのことは仕方としても今後は少なくとも予算の 1 万円は必ず男女共同参画事業に使うということをお願いしたい。

近隣の自治体に比べてあまりにも予算の差が大きすぎることから、ジェンダーとい

うもの問題をあまりにも軽んじていると感じる。現実問題、今現場ではマンパワーが足りないはその通りだと思うが、じゃあそのマンパワーを増やすことも含めて、この問題にどう取り組んでいくのか、その方針を町長にはしっかり示していただきたい。

【町回答】

おっしゃることは重々わかるが、当然予算の優先順位があるので、今後内部でもう一度検討させていただく。

(住民)

内閣府の男女共同参画局が作成している地方公共団体における男女共同参画の推進に向けた取り組み事例集では、そんなにお金をかけなくてもできるようなことも載っているので、ぜひこういうものを参考にして、可能な範囲でマンパワーと予算をつけていただきたい。

事例集を見ていると男女共同参画センターが主導だったりするので、大山崎町には男女共同参画センターや男女共同参画課みたいなものがないということが、やはり積極的に動かない問題の1つかと思うので、ぜひそういうところに予算と人を充てて進めていただきたい。

【町回答】

できる限りそういう事業に関して、私も勉強して前向きに検討していきたい。

3. 円明寺が丘団地の建て替えについて

(住民)

円明寺が丘団地は築50年経過しているので、バリアフリー化や耐震化工事を行うことや、何もせずにそのまま使用することは不可能に近い状態になっている。建て替えを検討する上では、高さ制限が緩和されるかどうかが重要となる。高さ制限を緩和することによって建物を大きくして、その分の収益で負担を減らすということがない場合、建て替えは極めて難しくなる。

町として、高さ制限の緩和については、住民側の意思がある程度統一されてから検討するとのことであるが、もう少し支援をしていただきたいが、そのあたりについてはいかがか。

【町回答】

円明寺が丘団地に関して、これまで町は関わってこなかったが、私は重点的な課題がある問題と認識しており、町は縁の下の力持ちとして関わっていきたい。

その地域の高齢者の方からは、今更借金をして建て替えすることはできないという声

がある一方で、新しく建て替えて資産価値を上げたいという声も聞いている。その地域に住む方のご意見を聞いて、方向づくりをしていくことが必要だと感じており、町としては説明会等により情報提供していきたい。

また、現在は個々に管理組合があるが、もう少し広域の管理組合ができれば町としても話がしやすいと感じている。

高さ制限についても、皆さんのご意見を聞きながら、町として決断をしていく必要があると考えている。

(住民)

管理組合同士の横のつながり、連合会みたいなものをつくることはなかなか難しいので、そうしたところも町としてサポートしていただきたい。

建て替えについては、する・しないの問題ではなく、いつかは必ずする必要があるので、いつするかという時期の問題である。いかにスムーズにお金を使わずにやるということが住民としても、町としても重要なので、そもそも前提として、いつかは建て替えされるということを理解してもらい、うまくやっていけたらいいのではと思う。

【町回答】

これまでに何度か説明会を実施しているが、こうした問題に行政が入り込むことはなかなかないことで、かなり特殊だが、縁の下の力持ちとして中に入って、できる限りのお手伝いさせていただきたい。

4. ①パートナーシップ制度について／②鳥居前配水地内通学路整備について／③放課後児童クラブの入会基準について

(住民)

- ① パートナーシップ制度について、現状は同性間でのパートナーシップ制度になっているが、同性だけではなく事実婚のパートナーにも、その門戸を開いて欲しいと、以前のふれあいミーティングでお話した。その時は周りの自治体との兼ね合いでそれは難しいという話であったが、今後は他の自治体もそちらの方向にいくと思うので、すぐには難しいことはわかるが、視野には入れていってほしい。
- ② 先週の議会報告会に参加し、議会で鳥居前配水地内通学路整備にかかる予算が削除されたことについて質問したが、議会としてはPTAから他のいろいろな箇所の整備をして欲しいという声が上がっている中で、なぜここを優先するのかを確認したが、町から明確な返答がなかったので予算を削除したという回答であった。またバイオトイレの設置に関する予算についても同じように議会からの質問に対して、町からの回答がなかったということだったので、現状どうなっているのかを聞きたい。

通学路の整備についてはこれにめげずに進めていってほしい。

- ③ 昨年、入会基準を新設されたが、その基準で一番気になったのが、とにかく1年生を最優先に定員を埋めていくというところで、ちょっと乱暴な内容だと思う。

担当者に確認したところ、入会希望者が増えており、もしかしたら待機児童が出る恐れがあるため新設したが、見直していく必要があるとのことでしたので、今年はずいぶん見直してほしい。

【町回答】

- ① 現在、すでにパートナーシップ制度を導入された関西一円の自治体間で、転入転出による一般的な異動と同じようにパートナーシップ制度についても、各自治体で引き継いでいけるようにする協定を結んでおり、その中で基本的には同じルールでやっているといるところであるため、まずはその点を尊重しつつ、今後、世の中の趨勢が変わっていったら、事実婚の方も対象になるということになれば、また協議の中で、そのあたりが定まっていくと思う。

大山崎町だけが先行するという考えもあるかもしれないが、当初、そういった協定に参加したということは、そのパートナーシップ制度自体の運用をできる限り不利益が生じないようにという考えのもとに進めているので、まずはその点をご理解いただきたい。

- ② 通学路に関しては小倉神社裏の町施設の階段のところであるが、その必要性は感じている。この通路自体が今まで使われていなかったので活用すべきと思っている。今後も引き続き、議会に理解を求めて進めていきたい。

- ③ 昨年度は本当に待機児童が出るかもしれない状況の中、何とか待機児童を出さずに済んだというような状況であったので、一定の基準が必要ということで令和5年度から新たな入会基準を打ち出したところである。

令和6年度には民間放課後児童クラブが2つ開所されることと、現状でも新しい設備等について計画を進めているというところもあるので、当面は待機児童の問題については一段落したというふうには認識している。ただ、当然、各クラブ入会率が100%ということになると、受け皿としては対応できないということになるので、そこには一定の入会基準が必要である。それから、実態として3年生4年生と学年が上がるにつれて、家庭で保育、留守番ができますということで退会されている方も多い傾向にあるので、まず基準としては、そういう留守番能力のない1年生2年生を優先すべきという一定の考えを持っている。いずれにしても町長の方針で、とにかく待機児童を出さないというところで、今現在は施策を進めているので、入会基準による選考をしなくて済むようにということを一にやっている。

また、例えば4年生でも残りたい方を残すという基準が、実際にできるのかどうかというところについては保護者会も含めて協議をしていきたいと思っているが、今の時点では、待機を出さずに、基準を使わずに済むようにということを優先してやっているということをご理解いただきたい。

(住民)

- ③ 他の自治体では利用日数によって、それを点数化しているようなところもある。例えば週1回利用する1年生と週5回必要な4年生を比べるのが難しいと思うので、継続的に基準の見直しをお願いしたい。

【町回答】

- ③ 今年度予算でも民間放課後児童クラブの施設整備補助金および運営補助金を計上しており、4月から民間放課後児童クラブが1つできて、また半年後ぐらいには、もう1つ民間の放課後児童クラブが動き出すので、もう一度放課後児童クラブ全体について見直し、その運営について先生や保護者の意見を聞いて、民間放課後児童クラブも含めた大山崎町の子どもたちの放課後児童クラブのあり方というものを作っていきたい。

(住民)

- ② 議会報告会で、バイオトイレの設置のために寄付された200万円の予算をなぜ削除したのかと質問したが、議会が200万円の予算に対して、実際にかかる費用を町に確認すると、町からは200万円を超える費用がかかるとの回答であった。その超える費用をどうするのかという質問に対して、町から回答がなかったため、削除せざるをえなかったといったような回答を議員はされたが、議員が言っていることは本当か。

【町回答】

- ② 費用については回答したつもりである。具体的に言うと200万の寄付ですべて賄うことができず、バイオトイレを使用するには電力が必要になるため、その電気の工事費と電気代を予算に計上できていなかったということで、予算委員会では、その説明をしたつもりだが、今後も引き続き理解を求めていきたい。ただ、こちらの認識としては、削除された理由は「町長は観光に力を入れない」と言っているのに、なぜ観光関係の予算が前年度よりも増えているのか疑問であるという説明であったので、もう一度その理由を確認する。

(住民)

予算が足りていないということが事実であるならば、議会として足りていない予算を通すわけにはいかないという議会の考えは筋が通っているように聞こえる。私自身もこ

の間も天王山に登ってトイレがあったらいいのにと思ったので、ぜひそれを実現していただきたいので、議員の質問に対して、ちゃんと調整をした上で、予算が通るような形にしていきたい。

5. ①学童について／②議会のネット配信について

(住民)

- ① 学童について、コロナのこともあり、いろんな活動が制限される中で、現在はだんだん緩和され、コロナ前の活動が戻ってきて、指導員や事務局の方は大変お忙しい中、活動のほうにもご理解ご協力いただいて、子どもたちが活動できるようになり、親も子どもと一緒に参加できているし、今後もこのような活動をぜひ続けていっていただきたい。
- ② 現在この大山崎町でどういう議論がなされて、どういう理由でその意思決定がされたのかということが、普段生活をしていてなかなかわかりづらい。広報やホームページに掲載されているものはあるものの、やはりちょっとわかりにくい部分があるので、他の自治体でもされているような議会のネット配信があればありがたいと思っているので、今現状どのような取り組み状況かを教えてほしい。

【町回答】

- ① 町としては「子育てのまち」に力を入れていきたいと考えているので、子育ての関係の事業はできるだけ活発にしていきたいと考えている。
- ② 議会のネット配信に関しては、今年度中に議会の方が議論されて、配信されるようになると思う。

6. ①住民が交流したり、イベントができる広場の整備について／②中ノ池について

(住民)

- ① 大山崎町の魅力は自然豊かなまちだと思っている。住民が増えて、税収が増えたというところもいいことであるが、町が土地を管理して、公園整備等に活用することによって、住民が集えたり交流したり、イベントができる広場の整備をしてほしい。
- ② 中ノ池の整備について、現在何か議題にあがったりしているか。

【町回答】

- ① 町のスローガンとして「自然豊かな子育てのまち」を掲げているので、自然豊かさに関しては、天王山の緑を残して淀川の河川敷も身近な河川敷にしていきたいというような考えである。現在は若い方が増えている状態であるので、そういった皆様のご意見を聞いて、さらにまちが活性化するようにしていきたい。そのことによって、シルバー

世代の方も若い人と接することで、まち全体が元気になっていくと思っている。

公園の整備に関しては、大山崎町は全国でも上位に入る小さい面積の町ですが、それをデメリットと思わずメリットとして活用していきたい。小さいということはなかなか面積がないが、できる限り大きな公園を整備するような形を持っていきたいし、天王山あるいは河川敷を活用して公園に近い緑を作っていきたい。

- ② 中ノ池に関しては円明寺区の財産であり、円明寺区の方が売却という方向で動いている。町は緑の下の力持ちとして、それをお手伝いする形である。中ノ池が売却された一部の土地を活用し、現在の西法寺公園をもう少し大きな公園にするような案を作っているところである。

(住民)

- ① 自然豊かというのはいいところだと思っている。田畑については大山崎町の場合、市街化調整区域がほとんどないため、今も円明寺の線路沿いを開発しているが、自然がもう天王山と川だけになってしまう。もちろん民地で個人の資産なので、町としてできることはなく、土地開発が進めば田畑がほとんどなくなってしまう。自然が魅力のはずが全部なくなってしまうのは、二律背反だと思うが、その辺りはどう考えているか。

【町回答】

- ① 田畑を守るということについては、住民阿から議会のほうにも要望書が提出された。当然個人の資産であるが、活用していない田畑を町のほうで利用するような形ができればと考えている。